

提案Ⅰ

提案者名:SY

テーマ名:「学習者のニーズに沿った対応の仕方」

提案理由:7月定例会で新しいボランティアさんから出された意見を基に、多くの人に参加してもらい自由に意見交換する場を持ちたいので提案する。

実践方法:外国人参加者の国籍、職業などを想定し、ケーススタディのような形でグループごとに話しあい、その後発表するという形にする。今までに作成した資料などを活用し、実際の活動にできるだけ生かせるようにする。

提案Ⅱ

提案者名:SY

テーマ名:「医療通訳制度について知る」

提案理由:外国人参加者や家族が病院を利用する場合にどんな支援ができるのかを知っておいた方が良くと考えて提案する。

実践方法:「群馬の医療を言語・文化を考える会」(NPO法人)のMHを招いて、群馬県の医療通訳制度及び他都道府県の状況について話しを聞く。またMHさん達が現在作成中の外国人のための「健康手帳」について協力できるようにする。

提案Ⅲ

提案者名:YM

テーマ名:「外国人労働者の増加への対応を考える」

提案理由:「骨太の方針」が閣議決定され、外国人労働者の受け入れ枠拡大が迫っています。

外国人技能実習制度の改正により、現況127万人の外国人労働者に加え、何と43万人もの増加が見込まれ、日本語需要の急増は必定です。

そこで、“日本語を学びたい外国人労働者(生活者)にどう対応するのか”を、日本語活動グループとして検討しておく必要があります。

その他:①外国人技能実習制度の改正概要や外国人労働者の実態などについての勉強会(しかるべき講師をお迎えし講義を受け共通認識をもつ)

②県内の主要な団体へのアンケート(もしくは聞き取り)調査

③市内の外国人労働者受け入れ企業へのアンケート(もしくは聞き取り)調査

以上をディスカッション材料とし、日本語活動グループとしての対応(案)を導く。